

## 緊急レポート

### 「これからの資産運用 リスクと上手に付き合う」 執筆 木村佳子

今年は年初から波乱含みで株式市場が推移しています。この傾向は6月23日の英国のEU離脱国民投票の離脱結果から生じた100円を切り99円台の円高、9%相当1525円ほど下がった日経平均株価にも見られます。

株価に対して「いずれ昨年12月の2万円方向に戻れる」という立場をとるか、「相場は崩れている」という立場をとるかで全く運用方針は違ってきます。英国国民投票は実務上今すぐ英国がEU離脱ということにはならず、相場の材料としてはいわば出がらしです。

しかし、あと2年は円高を誘発する国内外のイベントが多数あるため用心が必要です。楽観、悲観のどちらのスタンスをとるにしても、今後に備えるヒントとして株価を動かした材料を確認しておきましょう。

### ●6月23日の英国国民投票に世界の運用者が注目

EU離脱を問う英国国民投票は、儲かるものには貪欲にシフトするヘッジファンドには願ってもないチャンスになりました。彼らは人工知能(AI)によるアルゴリズム売買で今回も大儲けです。

投票一週間前には「残留派」のコックス議員殺害事件が起こり、しきりと同情票が残留に流れているという報道が相次ぎました。将来の重大な決定が同情で覆ることはないと思われるのに、この事件をきっかけに楽観ムードが醸成され、結果的には予想外の「離脱賛成」となり、円は対ドルで瞬間的に100円を割り、株価も大幅調整となったのです。

AIを駆使した複数の国際的仕手筋ファンドと通貨当局の超短縮時間での空中戦が起こったとみるべきでしょう。

ユーロがぐらつくイベントとして今後もイタリア、オランダ、フランス、ドイツでの選挙が控えており、この二年がもっとも用心すべきタイミングです。ヘッジファンドが狙いを定めているのは2017年秋のドイツ総選挙です。その前から大手銀行の金融不安説がしきりと流れてくるだろうと思います。ドイツをターゲットにした波乱相場に用心してください

---

#### <ディスクレマー>

本「緊急レポート」は、投資の参考になる情報の提供を目的として、作成されたものです。株式のリスク要因として、株価変動リスク、発行者の信用リスク等があります。投資に関する最終意思決定は、ご利用者ご自身の判断で決定されるようお願いいたします。本「緊急レポート」の情報は、その正確性、信頼性について、あかつき証券及びデータ提供者のいかなる関係者も保証するものではありません。誤字、脱字などによる単純な表記ミス等による理由も含め、何らかの理由により誤りである可能性もあります。なお、本「緊急レポート」は、(株)ビューズ(代表：木村佳子氏)があかつき証券との契約によって作成しています。

い。

ちなみに人工知能を相手にして勝てるわけがないのは囲碁将棋の世界でも明らかです。順張り投資では個人投資家の勝率を上げるのは難しいと思われます。

## ●アメリカ大統領選挙

お金は「不確実を嫌う」という習性があります。したがって選挙は結果がわかるまで不確実にとらえられ、敬遠されます。今年は11月8日にアメリカ大統領選挙があり、ユーロ圏での選挙同様、重大イベントとしてマークされています。

本命はヒラリー女史ですが、上流階級マダム的印象から人気がないともいわれ、ひょっとしてトランプ氏という「まさか」も想定しておいたほうがよさそうです。

もし、トランプ氏が選出されたら？

その「まさか」に備えて英国の国民投票同様、ヘッジファンドのAI取引も大チャンスととらえて事前に参戦してくるでしょうから、マーケットは揺れる可能性があります。

大統領が誰になるかで原油価格などの資源価格の水準は違ってきます。

というのも、オバマ大統領時代はシェールガスが施策の一つとなったために中東石油依存度が軽減され、原油価格が値下がりする要因の一つとなりました。

関係が悪化した中東と新しい大統領がどう付き合っていくのかによって原油価格の水準も変わります。

ちなみに今年の年初からの株安は原油価格の低迷が材料となりました。

## ●年初の株安は原油価格の値下がり誘発

同一商品をどのくらいの通貨で買えるかによって通貨水準を測るのが購買力平価の考え方です。ドル建て商品の原油が値下がりすると円で買える原油価格の量が増え、円の価値が増すととらえられ、円高が誘発されます。日経平均株価は円安で上昇する銘柄の組み入れが多いため、年初の原油価格の値下がりが円高・株安となったわけです。

---

### <ディスクレマー>

本「緊急レポート」は、投資の参考になる情報の提供を目的として、作成されたものです。株式のリスク要因として、株価変動リスク、発行者の信用リスク等があります。投資に関する最終意思決定は、ご利用者ご自身の判断で決定されるようお願いいたします。本「緊急レポート」の情報は、その正確性、信頼性について、あかつき証券及びデータ提供者のいかなる関係者も保証するものではありません。誤字、脱字などによる単純な表記ミス等による理由も含め、何らかの理由により誤りである可能性もあります。なお、本「緊急レポート」は、(株)ビューズ(代表：木村佳子氏)があかつき証券との契約によって作成しています。

原油価格が下がることで誰が得するか? といえば、ドル安誘発でメリットを享受したのはアメリカ企業でした。

従来、原油が安くなると企業コストが抑えられるため、つい最近までは原油価格の値下がりには日本企業にとって歓迎材料でした。

ところが今はシェールガス関連でとらえる必要があります。原油価格は2014年7月頃から下落しはじめ、今年は年初から「株安」を誘発する円高を創出するツールに使われ始めました。

ちなみに外国人投資家が大量に日本株を売り始めたのも同時期です。

2006年6月、アメリカ不動産価格が天井をつけ、以降、下落に転じたことがサブプライムローンに影響してリーマンショックを誘発したことを思い出せば、今回も「もしや」と思わせられました。

オバマ大統領の施策の一つにシェールガスがありましたが、原油安の進行はシェールガスの優位性をそぎ、シェールガス企業やそこに融資してきた金融機関の連鎖倒産にもつながりかねないからです。

現在、二度とリーマンショックのような負の金融連鎖を起こしてはいけないと各国の金融当局の監視・連携が深まり、デリバティブ等を駆使した過剰なヘッジは実質的に禁止されています。しかし、世界にはそうしたルールをかいくぐって金融市場の変動で儲けようとする運用者がいます。そうした運用者が原油価格に注目してデリバティブを仕掛けてくることはこれからもあり得るでしょう。投資家は11月8日の米大統領選の結果とともに今後も原油価格の動向に注意する必要があります。

現在は50ドル前後まで戻っていますが、ジム・ロジャーズ氏らの見方では大底を打った可能性も指摘されています。

これからも原油価格を気にしておきましょう。

---

<ディスクレマー>

本「緊急レポート」は、投資の参考になる情報の提供を目的として、作成されたものです。株式のリスク要因として、株価変動リスク、発行者の信用リスク等があります。投資に関する最終意思決定は、ご利用者ご自身の判断で決定されるようお願いいたします。本「緊急レポート」の情報は、その正確性、信頼性について、あかつき証券及びデータ提供者のいかなる関係者も保証するものではありません。誤字、脱字などによる単純な表記ミス等による理由も含め、何らかの理由により誤りである可能性もあります。なお、本「緊急レポート」は、(株)ビューズ(代表：木村佳子氏)があかつき証券との契約によって作成しています。

## ●7月参議院選挙と今後の日本

安倍首相が参議院選挙でどんな審判を迎えるのかは未知数です。

7月相場は安倍自民党が従来通り、もしくは多めの議席を獲得ても、サプライズはさほどなく、議席を減らした場合はネガティブ・ミニ・サプライズ、大きく減らした場合はネガティブ・ラージ・サプライズになろうかと思えます。7月15日のLINE上場という大きな話題もあるものの、総じて株式市場は難しい展開となりそうです

### [個人投資家の投資方針]

以上みてきたように、今後、2年程度は難しい相場展開が考えられます。したがって、突っ込んだときに買い、上がって少しでも儲かったら売るという単純ながらも正攻法の成功法則を徹底的に実践しないと、高値を買って安値を売ることになりがちです。

為替は円高が続きそうですし、株価もトレンドは下向きで、まだ大底を打ったとはいえません。この2年の間に大底を打ちに行くイメージです。

しかし、個人投資家こそができる粘り型の投資にはこの二年の株安期を利用しましょう。できるだけ好ましい高配当・手厚い優待実施の手堅い企業の買い増しを株安時に長期的に複数回実行しましょう。高配当でつぶれにくい企業は一部二部にたくさんあります。配当安定型で優待も株数に応じて優待度がアップする銘柄を選んでベーシックインカムを増やす楽しみは個人投資家ならではの株式投資の醍醐味です。ぜひ、この株安の二年間を配当+優待+堅実成長株との出会いの時期として楽しんでいただきたいと思います。

直近では7月のLINE上場(15日)以降から少しずつ市場は明るさを増し、8月前半から半ばにかけては意外にしっかりいい相場展開となりそうです。しかし、9月は13000～14500円台意識の急落の可能性もあるため、緩急つけた投資で乗り切ってください(了)

---

#### <ディスクレマー>

本「緊急レポート」は、投資の参考になる情報の提供を目的として、作成されたものです。株式のリスク要因として、株価変動リスク、発行者の信用リスク等があります。投資に関する最終意思決定は、ご利用者ご自身の判断で決定されるようお願いいたします。本「緊急レポート」の情報は、その正確性、信頼性について、あかつき証券及びデータ提供者のいかなる関係者も保証するものではありません。誤字、脱字などによる単純な表記ミス等による理由も含め、何らかの理由により誤りである可能性もあります。なお、本「緊急レポート」は、(株)ビューズ(代表：木村佳子氏)があかつき証券との契約によって作成しています。

<あかつき証券の営業網>

本店所在地 : 東京都中央区日本橋小舟町 8 番 1 号 ヒューリック小舟町ビル  
電話番号 : 03-5641-7810

下高井戸支店 : 03-5355-0801	平塚支店 : 0463-22-0920
武蔵小杉支店 : 044-733-8000	新座志木支店 : 048-473-6441
八日市場支店 : 0479-72-1331	成田支店 : 0476-24-2061
長浜支店 : 0749-62-1900	松阪支店 : 0598-21-6616
大阪支店 : 06-6946-9220	加古川支店 : 079-423-1500
赤穂支店 : 0791-43-2155	カスタマーサポートセンター : 0120-753-960

【当社の概要】

商号等：あかつき証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第 67 号

加入協会：日本証券業協会 一般社団法人金融先物取引業協会

<重要事項等のお知らせ>

- 本資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものです。本資料に含まれているデータ等は信頼し得る情報源から得たものですが、当社およびデータ提供者のいかなる関係者もその正確性・完全性を保証するものではありません。また、本資料内に記載された内容・意見は本資料の作成日におけるものであり、予告なく変更する場合があります。
- 本資料内で言及している外国証券は、一部を除き、我が国の金融商品取引法に基づく企業内容の開示は行われていません。
- 当社や関連会社、およびその役職員が本資料内に記載の証券もしくは金融商品について、自己売買または委託売買取引を行う場合があります。
- 投資に際しての最終決定はお客さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

<ディスクレマー>

本「緊急レポート」は、投資の参考になる情報の提供を目的として、作成されたものです。株式のリスク要因として、株価変動リスク、発行者の信用リスク等があります。投資に関する最終意思決定は、ご利用者ご自身の判断で決定されるようお願いいたします。本「緊急レポート」の情報は、その正確性、信頼性について、あかつき証券及びデータ提供者のいかなる関係者も保証するものではありません。誤字、脱字などによる単純な表記ミス等による理由も含め、何らかの理由により誤りである可能性もあります。なお、本「緊急レポート」は、(株)ビューズ（代表：木村佳子氏）があかつき証券との契約によって作成しています。

たします。

●本資料は当社の著作物であり、著作権法により保護されています。当社に無断で本資料の全部もしくは一部を引用・複製・転送等することを禁じます。

資料で言及・掲載した有価証券等のお取引にあたっては、次のような主なリスクがあります。

【価格変動リスク】

有価証券投資では、投資対象となる有価証券の価格の低下により、損失が生じるおそれがあります。債券については、金利水準の変化等により、償還前に売却する場合には債券価格が変動し、損失が生じるおそれがあります。

【為替変動リスク】

外貨資産への投資については、外国為替レートの変動にともなう円換算価値の低下により損失が生じるおそれがあります。

【信用リスク】

有価証券の発行者等の経営・財務状況の悪化にともなって価値が減少し、損失が生じるおそれがあります。

【流動性リスク】

投資資産の流動性・換金性の低下にともない、換金できない、または条件が非常に不利になる可能性があります。

<利益相反に関する開示事項>

●本資料は、株式会社ビューズ（代表：木村佳子氏）があかつき証券株式会社との契約に基づきレポートの提供を一定の期間にわたって定期的、継続的に行うことに対する包括的な対価を得ておりますが、レポートに対して個別に対価を得ているものではありません。

●銘柄選定は株式会社ビューズが行っており、銘柄指定は一切受けておりません。

●株式会社ビューズと本レポートの対象企業との間には、重大な利益相反の関係はありません。

<手数料等諸経費費用について>

---

<ディスクレマー>

本「緊急レポート」は、投資の参考になる情報の提供を目的として、作成されたものです。株式のリスク要因として、株価変動リスク、発行者の信用リスク等があります。投資に関する最終意思決定は、ご利用者ご自身の判断で決定されるようお願いいたします。本「緊急レポート」の情報は、その正確性、信頼性について、あかつき証券及びデータ提供者のいかなる関係者も保証するものではありません。誤字、脱字などによる単純な表記ミス等による理由も含め、何らかの理由により誤りである可能性もあります。なお、本「緊急レポート」は、(株)ビューズ（代表：木村佳子氏）があかつき証券との契約によって作成しています。

お取引にあたっては、取引金額に当社所定の料率をかけて計算した委託手数料等の費用が発生します。

●日本の株式を売買する場合には、約定金額に対して最大 1.242%（税込）、又は約定代金の 1.242%に相当する金額が 2,700 円に満たない場合は、2,700 円（税込）の委託手数料をいただくこととなります。外国の株式等を売買する場合には、売買金額（約定金額に現地委託手数料および税金等を加減した金額）に対し、最大 16.2%（税込）の国内取次手数料がかかります。外国金融商品市場での取引にかかる手数料、税金等は国（市場）により異なります。外国株式等の売買、配当金等の受取り等にあたり、円貨と外貨を交換する際は、外国為替市場の動向をふまえて当社が決定した為替レートを用います。日本および外国の株式等を募集により、あるいは当社との相対取引により購入する場合は、購入対価のみをお支払いただきます。ただし、相対取引による売買においても、お客様との合意に基づき、別途手数料をいただく場合がございます。詳しくは、契約締結前交付書面、または目論見書等をよくお読みください。

●投資信託については、それぞれの銘柄毎に販売手数料の他、残高に対して一定の料率をかけて計算した信託報酬その他費用が発生する場合があります。

広告審査番号：280144

---

<ディスクレマー>

本「緊急レポート」は、投資の参考になる情報の提供を目的として、作成されたものです。株式のリスク要因として、株価変動リスク、発行者の信用リスク等があります。投資に関する最終意思決定は、ご利用者ご自身の判断で決定されるようお願いいたします。本「緊急レポート」の情報は、その正確性、信頼性について、あかつき証券及びデータ提供者のいかなる関係者も保証するものではありません。誤字、脱字などによる単純な表記ミス等による理由も含め、何らかの理由により誤りである可能性もあります。なお、本「緊急レポート」は、(株)ビューズ（代表：木村佳子氏）があかつき証券との契約によって作成しています。